

2023年3月期 第3四半期決算 決算IR説明会ネットカンファレンス
(2023/2/2開催) 説明要旨

【2023年3月期第3四半期実績】

【要約連結純損益計算書】

収益：

金属・資源・リサイクル本部で、引き続き石炭価格の高止まりにより、前年同期比 1,062 億円増収の 5,190 億円。化学本部も合成樹脂、レアアース、C5 関連事業が総じて堅調であったことにより、前年同期比 834 億円増収の 4,811 億円。

また、リテール・コンシューマーサービス本部でも、水産食品加工会社の新規取得による影響により、前年同期比 810 億円増収の 2,329 億円。全体では前年同期比 3,767 億円増収の 1 兆 9,253 億円。

売上総利益：収益面で増収となった 3 本部のうち、金属・資源・リサイクル本部の増益寄与度が大きく、前年同期比 352 億円の増益。また、リテール・コンシューマーサービス本部、化学本部において、増収に伴う増益がそれぞれ 103 億円、94 億円となり、全体では前年同期比 727 億円増益の 2,634 億円。

販売費及び一般管理費：新規連結子会社の販管費算入、円安による海外現法、事業会社の費用の円換算額の増加、業績向上に伴う賞与の増加などにより、前年同期比で ▲319 億円の費用増加となり、▲1,620 億円の費用計上。

その他の収益・費用（非経常損益）：上半期に計上したフィリピン通信タワー事業の一部譲渡に伴う売却益及び再評価益に加え、リート資産運用会社の譲渡益、銅鉱山権益の撤退に向けた整理損などを計上し、ネットで 72 億円の収益計上。

金融収益・費用：金利収支でネットで ▲36 億円の費用計上となり、受取配当金の減少などもあり、全体で前年同期比 ▲18 億円費用増の、▲2 億円の費用計上。

持分法による投資損益：鉄鋼製品事業会社、LNG 関連会社及び欧州風力事業会社の増益により、前年同期比で 117 億円増益の 371 億円。

税引前利益・当期純利益：税引前利益は前年同期比 605 億円増益の 1,455 億円。ここから法人所得税費用を差し引いた当社株主に帰属する当期純利益は、前年同期比で 467 億円増益の 1,087 億円。

11 月 1 日に上方修正した通期見通し 1,100 億円に対する進捗率は 99%。今回、通期当期純利益見通しは修正せず、据置き。

【要約連結財政状態計算書】

総資産：2兆8,556億円と、22年3月末比1,939億円の増加。円安による外貨建て資産の円換算額の増加が700億円程度含まれており、純増加部分の約1,200億円は、新規投資の実行、石炭、肥料等の取引のタイミングによる営業資産の増加によるもの。

負債合計：22年3月末比671億円増加の1兆9,649億円。資産同様、円安による影響約500億円を含む。

資本（当社株主に帰属する持分）：当期純利益の積み上がりなどによる利益剰余金の増加926億円に加え、円安による在外営業活動体の為替換算差額の375億円増加を主因とし、その他の資本の構成要素が285億円増加し、22年3月末比1,212億円増加の8,492億円。

ネット負債倍率：22年3月末比で0.18ポイント低下の0.88倍。

【キャッシュ・フローの状況】

営業活動によるキャッシュ・フロー：基礎的営業キャッシュ・フローの増加を主因とし、1,280億円の回収超。

投資活動によるキャッシュ・フロー：新規投資の実行により▲463億円のキャッシュアウト。

フリー・キャッシュ・フロー：817億円のキャッシュ・イン。

基礎的キャッシュ・フロー：基礎的営業キャッシュ・フローに、資産入替に伴うキャッシュ・イン600億円を加え、新規投資▲670億円の拠出、株主還元▲290億円の拠出を差し引き、795億円のキャッシュ・イン。

【セグメントの状況】

石炭市況の高止まりによる増益となった金属・資源・リサイクル本部をはじめ、全てのセグメントで前年同期比増益。

足元の進捗を踏まえ、11月1日の修正見通しから改めてセグメント毎の見通しを修正。

自動車本部：半導体不足の影響が一定程度ある中、米州事業などが好調に推移し、また海外自動車事業における円安影響もあり、第3四半期実績は69億円。堅調な推移を踏まえ、通期見通しを80億円に上方修正。

航空産業・交通プロジェクト本部：航空関連や船舶事業の収益貢献等により、第3四半期実績は、44億円と堅調に推移。通期見通しは、概ね見通し通りとして、11月1日に上方修正した50億円を据え置き。

インフラ・ヘルスケア本部：LNG関連事業や国内外発電事業が引き続き堅調に推移し、第3四半期実績は122億円。第4四半期でも、LNG関連事業、発電事業からの収益貢献を見込み、通期見通しは170億円に上方修正。

金属・資源・リサイクル本部：上期進捗が好調だったため、11月1日、期初見通し510億円から650億円に上方修正したが、足元の石炭市況は堅調に推移する一方で、豪州の豪雨による生産量減少や、第3四半期に計上した銅鉱山権益撤退に向けた整理損の影響を織り込み、通期見通しを600億円に下方修正。

化学本部：上期から引き続き化学品全般の市況、収益性の改善が継続し、第3四半期実績は151億円。堅調な推移を見込み、通期見通しは据え置き。

生活産業・アグリビジネス本部：第3四半期でも利益の積み上がりがあり、74億円の実績。この進捗を踏まえ、第4四半期は白字程度を見込み、通期見通しを75億円に上方修正。

リテール・コンシューマーサービス本部：第3四半期実績は、資産入れ替えの影響などにより75億円。11月1日に、下期の資産入れ替えによる一過性の利益計上を見込んで50億円から上方修正した70億円の通期見通しを今回超過したことに加え、その進捗を踏まえ75億円に上方修正。

7本部の通期見通しを見直し、第4四半期で合計200億円程度の利益を見込む。

その他：第3四半期実績69億円。足元のインフレ進行、および金利上昇等の外部環境下、進行中のプロジェクトの計画修正やコロナによるプロジェクト進捗の遅れによるコスト増を踏まえた、資産評価の見

直しに伴うコスト▲200億円程度を織り込み、通期見通しを▲120億円に下方修正。

【通期見通し】

売上総利益：11月1日発表値3,400億円から3,450億円に上方修正。

販売費及び一般管理費：11月1日発表値2,300億円から2,250億円に上方修正。

金融収益・費用：11月1日発表値▲50億円を▲10億円に+40億円の修正。

持分法による投資損益：11月1日発表値430億円を490億円に上方修正。

その他の収益・費用：▲200億円の費用を織り込み、11月1日発表値20億円を▲180億円に修正。

税引前利益・当期純利益：修正なし。

財政状態：新規投資、資産入替の見通し、為替レートを130円に置き換えたことに伴い、それぞれの通期見通しを修正。

以上